

9. NB-18 (メチオニン) 水溶剤による

熟期促進

ナシ (廿世紀)

試験担当場所：福島園試，鳥取果試，福岡園試

効果が認められた場合と (鳥取，福岡など)，認められない場合があった (福島など)。効果が認められた場合もエスレルより劣り，時により果実の肥大が抑制された。新世紀でも3～4日の熟期促進効果が認められたがユズ肌が発生した (福岡)。判定は継?で理由は効果が不十分なためであった。

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，富山農試魚津，和歌山果試紀北，(果試安芸津)

1000～2000ppmで2～7日の促進効果が認められたが，効果の変異が非常に大きくエスレルより効果が劣った。継?と判定され，理由は効果が不十分なためであった。

10. ACP-68-250 (エスレル) 液剤による摘果 (摘蕾)

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，岐阜農試，和歌山果試

満開前10～15日の散布で50～75ppmの濃度はよい摘果効果が認められたが，福岡だ

けは6～12日前の100ppmがよかった。

実用濃度は50ppm前後と考えられるが，気温や樹勢によって効果に変異がみられた。判定は実継で，使用法は，①濃度50ppm。②散布時期は満開後10日。継続検討事項は，①気象，樹勢などによる効果の変異の解析。②散布時期をさらに確めるなどであった。

11. ジベレリン (GA) 液剤による落果防止

カキ (富有)

試験担当場所：和歌山果試紀北，鳥取果試，福岡園試

どの場所でも効果が認められたが，果実はやや小さくなる傾向がみられた (鳥取，福岡)。これは実用上問題ではあるが，仕上げ摘果によって補えるとしている。実用と判定され，使用法は次のようにきめられた。①満開10日後の散布で，濃度は200ppm。②火山灰土壌や単植園で効果が期待できる。

12. G・H・S水溶剤による糖度の増加

モモ (早生品種)

試験担当場所：福島園試，富山農試魚津，愛知農総試園研，香川農試府中，愛媛果試，(山形園試砂丘)

いくらか効果があるとみられたのは愛媛の布目早生だけであった。継?と判定された。

昭和48年度カンキツ関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場興津支場栽培研究室長 広瀬和栄

昭和48年度カンキツ関係除草剤・生育調節剤試験成績の検討会を東京 (日本都市センター)

において開催した。

であつた。

検討した薬剤は除草剤15種、生育調節剤12 検討結果は第1表に示す。

種であり、検討に参加した試験場所は23場所

第1表 昭和48年度 カンキツ関係試験供試薬剤・試験場所および判定一覧表

A. 除 草 剤

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・継 の 別 { 前 回 判 定 }	今 回 判 定	判定理由および 内 容
1	DCPA DCPA { 改良DCPA }	乳	3,4-ジクロロプ ロピオンアニリ ド 20.0%	武田薬品工業	静岡柑試・伊豆、 和歌山果試、広島 果試、山口・大島 柑試、香川農試府 中、福岡園試、宮 崎総農試	継 続 [実・継]	実用化	[夏草対象] ・ 2~3 l / 10 a 散布 (水量, 200 l)
2	CB-712 { サイプロミット・ プロモキシニル }	乳	サイプロミット: 3/4'-ジクロル プロパンカルボ キシアニリド 20.0% プロモキシニル: 3,5-ジブロム -4-ヒドロキ シベンゾニトリ ル 15.0%	C B 研 究 会 { 石 原 産 業 東 陽 通 商 日産化学工業 日 本 曹 達 }	静岡柑試・伊豆、 和歌山果試、香川 農試府中、佐賀果 試	継 続 [継]	継 続	夏草に対する効 果に関して、草 種と濃度につい て再検討
3	DCMU・ プロマシル { DCMU・プロマシル デュボン クロノマーI }	水和	DCMU: 3-(3, 4-ジクロルフ エニル)-1,1 -ジメチル尿素 40.0% プロマシル: 5- グロム-3-セ コンダリ-ブチ ル-6-メチル ウラシル 40.0%	デュボン・ ファーイースト (日本支社)	静岡柑橋試、高知 果試、福岡園試	継 続 [継]	継 続	効果劣る (継 ?)
4	EH-275 { DCMU・ターバシル デュボンゾーバー }	水和	DCMU: 3-(3, 4-ジクロルフ エニル)-1,1 -メチル尿素 30.0% ターバシル: 3- ターシャリ-ブチ ル-5-クロロ- 6-メチルウラシ ル 40.0%	デュボン・ ファーイースト (日本支社)	高知果試	継 続 [実]	実用化 ・ 継 続	[夏草対象] ・ 0.3~0.4 kg / 10 a 散布 ・ 草種、雑柑の 種類について 再検討

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・継 別 〔 前 回 判定 〕	今 回 判 定	判定理由および 内 容
5	SSH-36 アシュラム・ 〔 アイオキシニル アシュメックス 〕	水溶 (液)	アシュラム(Na): N'-メトキシカル ボニルスル フェニルアミド (Na) 23.0% アイオキシニル(Na) 3,5-ジ- 4-ヒドロキシ ベンゾニトリル 23.0%	塩 野 義 製 薬	果試・口之津, 徳 島果試, 愛媛果試, 佐賀果試, 熊本果 試	継 続 〔 継 ? 〕	継 ?	効果不足
6	A-3589 〔 (アメトリン・ GS-14254) 〕	水和	アメトリン: 2- メチルチオ-4- -エチルアミノ -6-イソプロ ピルアミノ-S -トリアジン 25.0% GS-14254: 2- -メトキシ-4- -エチルアミノ -6-セコンタ リ-ブチルアミ ノ-S-トリア ジン 25.0%	日本チバガイギー	果試・興津, 静岡 柑橘試, 愛媛果試, 福岡園試	継 続 〔 継 〕	継 続	処理薬量(濃度) と草種について 再検討
7	MON-39 〔 グリフォセート ラウンドアップ 〕	乳	N-(ホスホノメ チル)グリシン ・イソプロピル アミン塩 41.5%	日本モンサント	果試・興津, 同・ 安芸津, 神奈川・ 根府川, 静岡柑橘 試, 三重・紀南か んきつセンター, 和歌山果試, 山口 ・大島柑試, 愛媛 果試, 高知果試, 佐賀果試, 熊本果 試, 宮崎総農試	継 続 〔 継 〕	実用化 継 続	〔春・夏草対象〕 ・雑草生育期 0.25~0.5 l/ 10a (水量 50~100 l) 散布。(ただ しミカンの茎 葉にかからぬ よう注意) ・実用試験(試 験区の規模の 拡大)につい て検討。 宿根草の草種 ・濃度につい て再検討
8	amefryne 〔 アメトリン ゲザパックス 〕	水和	2-メチルチオ- 4-エチルアミ ノ-6-イソプロ ピルアミノ-S -トリアジン 37.5%	日 本 化 薬 日本チバガイギー	果試・興津, 神奈 川・根府川, 静岡 柑橘試, 愛知・蒲 郡, 和歌山果試, 広島果試, 愛媛果 試, 福岡園試, 熊	継 続 〔 実 〕	実用化	〔春・夏草対象〕 ・雑草生育期 0.75~1.0 kg /10a 散布

番号	薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所	新・経 別 〔 前 回 判 定 〕	今 回 判 定	判定理由および 内 容
					本果試, 大分柑試 ・津久見			
9	M&B-9057 アシュラム アーザラン	液	N-メトキシカル ボニルスルファ ニルアミド 37.0%	塩 野 義 製 薬	①1年生・多年生 雑草対象 果試・安芸津, 徳島果試, 愛媛 果試 ②多年生イネ科雑 草対象 果試・口之津, 愛媛果試, 大分 柑試・国東	継 続 〔実・継〕	実用化	昨年通り(ヨモ ギ, ギンギン, ワラビ対象, 生 育初期2~31/ 10a 散布)
							継 続	ヒルガオ, チガ ヤは薬量, 濃度 について再検討
10	chlorthiamid DCBN プレフィックス	粒	2,6-ジクロルチ オベンザミド 6.0%	プレフィックス 普及会 〔石原産業〕 シエル化学	静岡柑橘試, 福岡 園試	新 規	継 続	試験年次不足 草種と薬量につ いて検討
11	chlorate 塩素酸塩 クロレートソーダ	水溶	塩素酸ナトリウム 98.5%	昭 和 電 工	果試・興津, 同・ 口之津, 同・安芸 津	新 規	実用化	〔春・夏草対象〕 雑草生育期4.5~ 7kg/10a散布 (但し, ミカン 葉にかからぬよ う注意)
12	DCBN・MCP (DCBN・MCP)	粒	DCBN: 2,6- ジクロルチオベ ンザミド 4% MCP: 2-メチ ル-4-クロル フェノキシ酢酸 4%	プレフィックス 普及会 〔石原産業〕 シエル化学	果試・口之津, 和 歌山果試	新 規	継 続	試験年次不足
13	RE-75	水和	(未公開) 50.0%	ト ー メ ン	果試・興津	新 規	継 ?	試験効果不足
14	SL-29	乳	(未公開)	石 原 産 業	香川・府中, 佐賀 果試	新 規	継 続	試験年次不足
15	SL-54	乳	(未公開)	石 原 産 業	香川・府中, 佐賀 果試	新 規	継 続	試験年次不足

B. 生育調節剤

薬 剤 名 〔効 果〕 〔商 品 名〕	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試験担当場所 (自主試験場)	新 の 前 判 別 回 定	今 回 定 判 定	判定理由又は 内 容
1. NAA 〔摘 果〕 〔ナフサク・他〕 1) 気象条件(温 度)と効果 2) 2回(分割) 散布 3) 基礎試験 4) そ の 他 5) 自主試験	水溶性 結 晶	α-ナフタリン 酢酸ナトリウ ム 93.8%	N A A 研 究 会 〔三 共〕 兼 商 九 州 三 共 協和醸造工業 クミアイ 化学工業 武田薬品工業 トモノ農業 日本特殊 農業製造 日 本 農 業 北興化学工業 保土谷化学工業 山 本 農 業	1) 果試・口之津， 静岡柑橘試，愛知 園研・蒲郡，大阪 農技，和歌山果試， 広島果試，香川農 試・府中，高知果 試，福岡園試，熊 本果試，鹿児島果 試 2) 三重農技紀南カ ンキツ，奈良農試， 佐賀果試，長崎農 試，大分柑橘試， 宮崎総農試 3) 果試・興津，千 葉大学 4) 三重農技紀南カ ンキツ，山口・大 島柑橘試，熊本果 試 5) 神奈川園試・根 府川，静岡柑橘試， 奈良農試，和歌山 果試，徳島果試， 愛媛果試，宮崎総 農試	継 続		
2. J-455 〔摘 果〕	乳	5-クロロイ ンダゾール酢 酸エチルエス テル 20.0%	日産化学工業	果試・興津，静岡柑 橘試，愛知園研蒲郡， 香川農試・府中，福 岡園試，熊本果試， 鹿児島果試，千葉大 学 〔神奈川園試・根府 川，静岡柑橘試， 愛知園研・蒲郡， 三重農技紀南カン キツ，奈良農試， 和歌山果試，広島 果試，山口・大島 柑橘試，愛媛果試， 高知果試，佐賀果 試，大分柑橘試， 鹿児島大学〕	継 続	継 続	・地域差(濃度 時期について) の検討 ・減酸(効果) 剤として時期 濃度について 検討

薬 劑 名 { 効 果 } { 商 品 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自主試験場)	新 規 試 験 { 前 判 }	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
3. TH-656 { 摘 果 }	液	1-(α -ナフ タレンアセチ ル)-3,5- ジメチルピラ ゾール (ピラ ゾフタレン) 5.0%	武田薬品工業	果試・興津, 奈良農 試, 和歌山果試, 広 島果試, 香川農試・ 府中, 愛媛果試, 福 岡園試, 佐賀果試, 長崎農試, 熊本果試, 宮崎総農試, 千葉大 学 〔 神奈川園試・根府 川, 静岡柑橘試, 同・伊豆, 愛知園 研・蒲郡, 三重農 技・紀南カンキツ, 愛媛果試 〕	継 続 〔 継 〕 5.46	継 続	・効果不安定に つき再検討
4. T-773 { 摘 果 } 1) 温州 2) 雄 柑	乳	(未公開) 2.00%	三 共	〔 1 〕 果試・興津, 静 岡柑橘試, 愛知 園研・蒲郡, 三 重農技・紀南カ ンキツ, 奈良農 試, 和歌山果試, 広島果試, 高知 果試, 佐賀果試, 熊本果試, 大分 柑橘試, 鹿児島 果試 〔 2 〕 果試・口之津, 静岡柑橘試・伊 豆, 奈良農試, 徳島果試・岩倉 母樹園	継 続 〔 継 〕	自 主 試 験	〔 ・効果不安定 ・雄柑類に対す る効果に期待 あり 〕
5. ACP-68-250 生育促進 (着色) エスレル	液	2-クロロエ チルホスホ ニックアシド 1.00%	2,4-D協議会 石 原 産 業 日産化学工業	果試・興津, 愛媛果 試・南予, 福岡園試, 鹿児島果試 〔 神奈川園試・根府 川, 高知果試, 大 分柑橘試, 宮崎総 農試, 千葉大学 〕	継 続 〔 継 〕	継 続 ?	・薬害 (落葉) 防止について 検討
6. NB-18 生育促進 (着色)	水 溶	DL-メチオニ ン ; α -アミ ノ- γ -メチ ルチオール- n-酪酸 8.00%	日 本 曹 達	果試・興津, 神奈川 園試・根府川, 静岡 柑橘試, 和歌山果試, 四国農試 〔 三重農技・紀南カ ンキツ, 広島果試, 香川農試・府中, 大分柑橘試, 宮崎 〕	継 続 〔 継 〕	継 続 (?)	・効果不足 ・処理時期につ いて検討 〔 但し, 着色< オレンジ色> 促進効果はみ られる。 〕

薬 剤 名 { 効 果 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自主試験場)	新 規 前 判	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
				総農試, 鹿児島果 試, 千葉大学			
7. OK-302 { 収 穫 }	水 和	シクロヘキシイ ミド 1.0%	大塚化学薬品	果試・興津, 静岡柑 橘試, 和歌山果試, 広島果試, 佐賀果試, 大分柑橘試 [神奈川園試・根府 川, 高知果試, 宮 崎総農試, 千葉大 学, 鹿児島大学]	新 規	継 続 ?	・薬害あり (中止)
8. ES-1 { 生育促進 (着色) [エチレンシープ] }	(吸着剤)	エチレン 5.0%	光 興 業 昭 和 電 工 ユニオン昭和	果試・興津, 大阪農 技, 愛媛果試, 高知 果試, 福岡園試, 熊 本果試, 宮崎総農試, 鹿児島果試 [静岡柑橘試, 高知 果試, 宮崎総農試, 千葉大学]	新 規	継 続	・試験年次不足 処理時期 (効 果発現期) 処 理方法につい て再検討
9. ACP-68-250 { 収 穫 [エスレル 1) 温 州 2) 雑 柑] }	液	2-クロロ-エ チル-ホスホ ニックアシド 1.0%	2,4-D協議会 [石 原 産 業 日産化学工業]	1) 果試・興津, 神 奈川園試・根府川, 静岡柑橘試, 愛媛 果試 2) 和歌山果試・紀 北, 徳島果試, 同 ・岩倉母樹園 [果試・興津, 静岡 柑橘試, 宮崎総農 試, 千葉大学]	継 続	実用化 継 続	[ヘッサク] ・収穫20日前 200~300 ppm 散布 [温州] ・薬害 (落葉) 防止について 再検討
10. CaCO ₃ { 品質改良 [フレフノン] }	水 和	炭酸カルシウム 95.0% (有機ポリマ ー等5.0%)	白石カルシウム	果試・興津, 神奈川 園試・根府川, 静岡 柑橘試, 和歌山果試, 同・紀北, 愛媛果試, 福岡園試 [徳島果試, 長崎農 試, 大分柑橘試, 鹿児島果試]	新 規	継 続	・散布時期・濃 度について再 検討
11. アビオン-E200 { 果面被膜 }	乳 (化)	パラフィン 36.0% (乳化剤・他 64.0%)	アビオン 化学研究所	(広島果試)		自 主 試 験	(効果なし)

薬 剤 名 { 効 果 名 } { 商 品 名 }	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	試 験 担 当 場 所 (自 主 試 験 場)	新 規 前 回 判 定	今 回 判 定	判定理由又は 内 容
12. PPK-30 減 酸	水 溶	高エネルギーリ ン酸化合物 30.0%	エ ー ザ イ	果試・興津 〔神奈川県・根府 川，三重農技・紀 南カンキツ，鹿児島 島果試〕	新 規	継 続	・混剤化につい て検討 ex. PPK- 30+NAA 同+プロリン

1 除 草 剤

1. DCPA (改) 乳剤

DCPAを主剤として，これに補助剤なしに乳化剤の改良によって生育期の草にまで効果の生ずるようにした薬剤である。

47年度に実証を得ており，カンキツに薬害少なく，夏草に有効であったが，大型の草には力不足であったため，濃度についての検討が必要であった。

春草用としては不適當であり，夏草用として草丈が30cm程度までの一年生草に有効で，薬量は21～31で200lの水量が必要であった。

2. CB-712 乳剤

シプロミッドとプロモキシニルの混合剤で接触効果の増強をねらったものである。

本年の効果は春草に対して効果を認めるがグラモキソンに比してやや効果が劣るようである。とくに宿根草の再生が早い。

夏草に対しては春草より効果が高く，グラモキソンと同等であった。しかしツクサやジシバに効果が劣る。

茎葉害はグラモキソンよりやや軽い，かなり生じる。

試験を継続する必要を認め濃度と草種の検討が必要であった。

3. DCMU ブロマシル水和剤

デュボンクローバーIとして温州ミカンで継続試験をしている薬剤である。ブロマシル単用に比べ，宿根草でやや効果が劣るが，メヒシバに対しては効果が高い。しかし，草量が多い場合には問題であり，濃度試験が必要であった。

4. EH-275 (DCMU・ターバシル) 水和剤

ゾーバーとしてすでに温州ミカン用として実用化している薬剤で，宿根草に対する効果がやや劣るが，メヒシバには有効であり，300～400g/10aで実用性を認めた。雑柑類に適用を拡大できるかどうか，今後検討の余地がある。

5. SSH-36 液剤

アシュラムにアイオキシニルを加えたものでアシュラムの遅効性に連動性を付加しようとしたものである。

春草に対して宿根草に対する効果が低く，効果が不十分な場所があり，今後検討する必要がある。

夏草に対して草種によって効果を認めるが，アシュラムの効果が主であつて，アイオキシニルの効果は不明確であった。

効果がアイオキシニルの付加の必要性なく，この薬剤をこのまゝでは継続する必要は認めなかった。

6. A-3589 水和剤

アメトリンにGS-14254を混合したもので、春草に対して低濃度の効果が劣り、高濃度でも茎まで枯死しないものがあり、カモジグサは出穂していると枯れにくかった。

夏草に対して高濃度で実用性を認めるが、低濃度ではやや効果が不充分であり、草種と濃度との関係を明らかにする必要がある。

7. MON-39 (ラウンドアップ) 乳剤

本年度かなり念入りに試験をした薬剤で、水量と薬量について重点的に行なった。

春草に対し、殺草力高く実用性を認める。薬量を500, 1000ml, 水量を50, 100l/10aとして試験した結果、500mlで50l/10aで十分な効果を認めた。薬量は500ml程度でよいと考えられる。水量は、100lの区の方が50lよりも効果が高まる傾向を認めた。

夏草に対しては、効果が高かった。薬量と水量の試験では、春草と同様に薬量の多い区で効果高く、水量の多い区の方が残草量は少なかった。500mlで十分な殺草効果を示し、宿根草にも有効なことが認められた。

温州ミカンに対する茎葉害は夏に散布された葉は秋期になって激しく落葉し、枯れ枝も生じ、次年度の発芽が奇形を示した。

そこで 実用継続と判定したが、実用は生育期処理で250~500mlの薬量、水量は50~100l/10aとし、ミカンの茎葉にはかからないようにする。継続は、宿根草の草種と薬量について検討する。

8. Ametryne (アメトリン) 水和剤

アメトリンは乳剤が実用化しており、それを水和剤にして、薬剤の輸送性、経費の節減を目的にしたものである。

春草に対して一年生草種に対して殺草効果が

高いが、宿根草に効果がやや劣った。

夏草に対して、高濃度では有効であったが、低濃度ではやや効果不足であった。乳剤よりやや劣る傾向を認めた。

薬害は、温州ミカン・ナツダイダイに対しては認めなかった。

9. M & B-9057 (アシュラム) 液剤

これまで温州ミカン園で実継になっており、継続は宿根草に対する濃度と効果についてであった。

春草に対して有効だが、ヒルガオは地上部は枯死するが根から再生する。

夏草は実用性を認めるが、草種により濃度を高める必要がある。

薬害について、温州ミカンで茎葉害を認め、黄変落葉する。チガヤは、地上部が枯れるが根絶しない。

本年も実継となったが、継続は宿根に対する濃度又は薬量についてである。

10. DCBN (プレフィックス) 粒剤

DBN粒剤と同様のものであり、効果も同様のものがあると考えた。ヤブカラシに対してはDBNと同様の効果を認めたが、ヨモギ、ギンギンに対しては効果がやや劣る傾向が認められたので、継続として次年度草種と薬量について検討することにした。

11. 塩素酸塩 (クロレートソーダ) 水和剤

この薬剤も同種のもので実用登録になっているので、既存のものとの比較が主たる目的であった。

春草、夏草に対して既成クロレートソーダと同等の効果を認めた。

しかし、クロレートソーダ自身は夏草のメヒンバ、エノコログサに効果が劣り、その面では実用性については問題があった。

1 2. DCBN・MCP粒剤

2 薬剤の混合で宿根草をより適確に枯死させることをねらったが、DBN剤の効果が主として顕われ、MCP剤の効果は認めなかった。

1 3. RE-75水和剤

DCMUに似た性質をもつ薬剤であるが、大型の草(30cm)に効果がなく、カンキツ園では実用性が認められなかった。

1 4. SL-29乳剤

新規薬剤であるが、草種、草量によっては有効であり、土壌処理害が認められないところから検討の余地がある。茎葉害は若干認めるが、グラモキソンより軽い。

1 5. SL-54乳剤

SL-29より効果はやや高く、春草用として実用性を認める。夏草に対して有効だが、草種と濃度について試験を行なう必要を認めたが、抑草期間の短いことが問題であろう。

II 生育調節剤

1. NAA

A. 気象条件の試験

処理日から7日程度の高温で過摘果が生じており、処理後3～5日が強く影響されることが明らかとなった。

B. 2回散布(分割散布)

満開後20～30日にNAAの50～100ppmを散布しておき、その後第2次生理落果が落ち着いた頃(40～50日)に50～100ppmを再散布する手法であり、このことにより若木の過摘果を示しやすい樹に対しては有効であることが認められた。この手法は、成木では実用化できそうであるので、次年度行なう予定である。

C. NAAの自主試験で、サマーオイルとの近接散布で過摘果が生じており、これの前後散布は注意を要することが提起され、次年度で試験を行なうことになった。

2. J-455乳剤

満開後40日に50～100ppmで有効であり、50～60日でも100～200ppmでかなり有効であった。それも地域差がかなり認められるため、今後の検討が必要である。

減酸効果が認められるため、次年度の検討課題とした。

3. TH-656液剤

全摘果剤として満開後20～30日に100～200ppmで結実率を10%以下とすることが出来、もし生産調整剤が必要であれば、この薬剤が最も実用性があると考えられた。

間引摘果剤としては50～60日に200～300ppmが有効であったが、一部に過摘果が生じた。今後の使用条件の検討が必要であろう。

4. T-773乳剤

全摘果剤として満開後20～40日で200ppm程度が有効であった。

間引摘果剤としては、30日目の50ppm、50日目の100ppm程度で再試験が必要であろう。

雑柑に対する効果のうち、甘夏柑に対しては30日後の100ppmが有効であった。福原オレンジでは認められない。ハッサクに対しては有効だが今後の検討が必要であった。

5. ACP-68-250(エスレル)液剤 (着色剤)

着色効果は認めるが、落葉に問題があったが本年も落葉が少なく、着色効果のある手法はなく、低濃度の3回散布を今後検討することにな

った。

6. NB-18水溶剤

メチオニンのエチレン効果をねらったものであるが、効果は認められなかった。

7. OK-302水和剤

収穫剤としてアメリカで有効であるが、温州ミカンでは薬害が激しく、実用性は認めなかった。

8. ES-1吸着剤

エチレンシブスは着色に有効であるが、ダンボール内での処理は無理があり、処理方法について今後検討して、再試験を行なうこととした。

9. ACP-68-250(エスレル)液剤 (収穫剤)

ハッサクについては50ppmの2回処理が有効で、収穫20日と10日処理が完全離層形

成果が100%となった。

そこで、ハッサクの収穫剤については実用とした。

温州ミカンに対しては落果減減法の検討が必要であった。

10. CaCO₃(クレフノン)水和剤

収穫前処理によって予措効果が認められた。浮皮防止効果を認められ、果皮硬度も高くなることから、今後検討の必要性を認めた。

11. アビオン-E200乳剤

冬期の落葉防止などの効果は、認められなかった。

12. PPK-30水溶剤

これだけでは減的効果は認められないが、NAAなどとの組み合わせで減的効果を認めた。今後検討の必要性を認める。

昭和49年度新供試除草剤・生育調節剤一覧表

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会では、昭和49年度夏作関係除草剤・生育調節剤委託試験に供試する各社の委託申請を、先に締切り、これら試験実施場所を決定した。

本年度の供試薬剤数を、対象別にみると、第1表の通りである。次に、本年度供試された薬剤のうち、新規委託のものについて、その有効成分及び委託者を示すと、第2表の通りである。

<第1表> 昭和49年度対象別供試薬剤一覧表

(昭和49年5月10日 現在)

区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数	区 分 ・ 対 象	供 試 薬 剤 数
水稻除草剤		野菜・花き除草剤		果樹除草剤	
作用特性	19	[春夏作] 野菜一般	3	ブドウ	4
作用性・変動要因	10	カンラン	11	カキ	1